

つて置いた通り、この問題が未定な研究材料であるといふことを以て、希望を將來に屬するものである。淺學菲才な私共の研究として内容上の價値乏しき事は、己むを得ないとして諒せられんことを乞ふのである。(完)

六年度役員變動

部長 岡田 秀
顧問 伊藤クラ 内山ヒイ 杉本ふみ 金子さぬ
委員

編輯係 林うさを 馬淵せん
庶務係 吉岡 香 鈴木 浪

會計係 横山ひやく

六年度新入會員

家事科一部一年
石原 文 花島 壽子 西本 安代
堀井ハツヨ 本田 榮子 奥田ヨシノ
河村 のぶ 鹿島かのえ 影山 テイ
横山 光子 谷本 操 鷹取 金
内藤 下枝 成田 いく 中島 榮
白井 剛 柳川 厚 山西じゆん

古川 トキ 青島 クセ 峯岸 さん
宮川 ふゆ 白石かつみ 日向 ナカ
清水 クラ 森元 静子 芹澤 かう
鈴木 あん 吉田 トメ

家事科二部一年

池田みえ子 原田 ふさ 長谷部ひろ
星 花 戸田ヲエイ 河合 文子
吉村 清子 高橋たみゑ 種子田エイ
竹内小くら 中山せつ子 圓川 かめ
白川 たか 柴山 さだ 山野セキラ

七年度役員變動

部長 大江スミ
顧問 伊藤クラ 内山ヒイ 杉本ふみ 金子さぬ
委員

編輯係 宮原ハルヨ 松崎ハナ
庶務係 廣田 ヨシ 青木千代

會計係 白井 サト 近藤和子

七年度新入會員

飯沼美智子 飯塚フミ子 飯塚 ミチ
石原 綾子 箱崎 ヨシ 花島 壽子
二ノ方サチ 西川モモカ 土井 貞代

平野 セイ 杉山 とく 杉森 あい
石井キクノ 出浦もせじ 服部 定子
林 安恵 堀井千代鶴 富田ヒサノ
大谷津照子 岡崎 キヨ 鷺谷 鶴代
萱島カツヨ 田村 きん 田村 キヨ
田谷 たま 田中 せき 太城 ヨシ
土屋 キヨ 南葉 小露 村山 糸子
山下 貞 藤卷 敏子 小池 ミサ
小島 清子 青木 千枝 荒木 ステ
菅原 慶子 齊藤 フミ 宮尾 テハ
備開 れい 靱木 孝 鈴木ハルヨ

會費領收

(自大正五年十一月 至大正七年十月)

一金壹圓貳拾錢 大正五、六年度分 田 淵 輝 子
一金壹圓貳拾錢 大正五、六年度分 梶 原 カジ
一金參圓六拾錢 明治四四—大正五年度分 黒 澤 みつ
一金壹圓貳拾錢 大正五、六年度分 小 林 フサ
一金壹圓貳拾錢 大正五、六年度分 黒 住 みちゑ
一金壹圓八拾錢 大正二、三、四年度分 黒 澤 ちや
一金壹圓八拾錢 大正三、四、五年度分 高 橋 トオ

留守 菊恵 大野 タキ 岡本 愛
荻野萬壽美 鷺澤 とみ 川野智江子
片尾 愛子 田邊 喜代 中野 トク
矢口チエ子 増田 チカ 小宮 トキ
小島 峯 國府田千代 青木 ハル
佐藤 トシ 岸田キクエ 宮武フサノ
森田 靖 百瀬 たき 伊田 敏子
市川 ふち 池田 ミン 林 緑
戸田ヲエイ 小野 ユキ 海保 きよ
片岡 光枝 建部 ゑま 中島 小枝
澤熊チトセ 笹尾みちへ 三浦 ふさ
森田 道子 稻次 しん 石原彌壽子
伊藤 静枝 堀本まつ子 時田 萬壽
橋本 静江 川崎 満 鹿島こはな
大石 直 吉野 トキ 塚瀬 フミ
甲斐 ツチ 村山 千早 占部 ハナ
永見 俊子 山岡 初 松永 初恵
久原 静江 扇 フデ 味富 コウ 上利 テイ
扇 フデ 佐々木しげ 木野 せい 北岡 君子
三田村さよ 柴田フジコ 四方キクエ

一金六拾錢	大正五年度分	中村常	一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	神田靜尾
一金四圓八拾錢	大正三、一〇年度分	田中セツ	一金壹圓八拾錢	大正二、三、四年度分	中山アキ
一金六拾錢	大正五年度分	太田つや	一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	下田ノブ
一金八拾錢	大正七年度分 他二十錢餘り	下田スミ	一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	早井ユウ
一金貳圓四拾錢	大正二、五年度分	千頭久	一金四圓八拾錢	明治四二—大正五年度分	野溝安枝
一金六拾錢	大正五年度分	河村タケヨ	一金四圓貳拾錢	明治四四—大正六年度分	林喜代
一金六拾錢	大正五年度分	柿木エツ	一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	吉田初子
一金六拾錢	大正四年度分	水谷ユウ	一金六拾錢	大正四年度分	小林靜江
一金壹圓八拾錢	明治四四—大正二年度分	須藤まつ	一金六拾錢	大正五年度分	片山まさ
一金壹圓八拾錢	明治四四—大正二年度分	山田みどり	一金參圓也	大正一—五年度分	高橋やい
一金貳圓四拾錢	大正三—六年度分	蜂谷麟	一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	山崎キクエ
一金六拾錢	大正五年度分	吉田つや	一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	渡壁幾子
一金四圓貳拾錢	明治四四—大正六年度分	齋藤千賀	一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	小野塚まさ
一金六拾錢	大正四年度分	藤巻ちを	一金參圓也	大正四—八年度分	横山エイ
一金壹圓貳拾錢	明治四二、四三年度分	石田ひろ	一金參圓也	大正二—六年度分	神岡はる
一金壹圓貳拾錢	大正七、八年度分	堀内ウサ	一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	石坂シサ
一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	中田富惠	一金參圓也	明治四四—大正四年度分	藤村コト
一金六拾錢	大正五年度分	堀端八重	一金壹圓貳拾錢	大正七、八年度分	小村コズエ
一金參圓也	大正三—七年度分	山口フジ	一金六拾錢	大正七年度分	池内ヨシエ
一金六拾錢	大正五年度分	芹澤とし	一金壹圓八拾錢	大正五、六、七年度分	津村シヅコ
一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	三輪まさの			

一金貳圓四拾錢	大正二—五年度分	清水サキ	一金參圓也	大正一—五年度分	池田千代
一金四圓貳拾錢	大正一—七年度分	武井もと	一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	近郷登代
一金六拾錢	大正三年度分	藤原時乃	一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	本多ヤヨヒ
一金六拾錢	大正三年度分	上尾いしの	一金貳圓也	大正六、七、八年度分 他二十錢餘り	木谷イシ
一金六圓六拾錢	大正三—二年度分	大塚ひで	一金六拾錢	大正七年度分	關ハツ
一金參圓也	大正二—六年度分	田口とら	一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	中村いち
一金四圓八拾錢	明治四二—大正五年度分	大久保タマ	一金六拾錢	大正五年度分	大村峯
一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	村上なほ	一金參圓也	大正二—六年度分	青木榮
一金參圓也	大正二—六年度分	森山しま	一金貳圓四拾錢	大正二—五年度分	松岡延
一金六拾錢	大正五年度分	庄司えい	一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	大川しげを
一金貳圓四拾錢	大正三—六年度分	黒田キミ	一金六拾錢	大正五年度分	廣田龜代
一金參圓六拾錢	明治四四—大正五年度分	高田ひで	一金六拾錢	大正五年度分	堀江歌子
一金貳圓四拾錢	大正三—六年度分	尾崎キミ	一金六拾錢	大正五年度分	加藤けい
一金參圓也	大正一—五年度分	檜崎イト	一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	内田かね
一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	安藤キク	一金四圓貳拾錢	明治四二—大正四年度分	岩瀬カメ
一金六拾錢	大正五年度分	平田正尾	一金參圓也	大正五—九年度分	鈴木ハル
一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	白井よしの	一金六拾錢	大正五年度分	大橋ヤイ
一金參圓也	大正一—五年度分	成田ヒサ	一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	御館たす
一金六拾錢	大正五年度分	田茂井ふさ	一金壹圓八拾錢	大正四、五年度分	田中いね
一金六拾錢	大正五年度分	齋藤千代	一金壹圓八拾錢	大正四、五、六年度分	竹内徳子
一金六拾錢	大正五年度分	齋藤節	一金壹圓八拾錢	明治四四—大正二年度分	木原ミチ

一金六拾錢	大正五年度分	西方はるの
一金壹圓貳拾錢	大正四、五年度分	西村なすの
一金六拾錢	大正五年度分	望月つや
一金參圓也	明治四四—大正四年度分	北村すゑの
一金六拾錢	大正五年度分	鷺島文
一金六拾錢	大正七年度分	山口さん
一金壹圓也	大正五年度分 四十錢餘	水田みつ
一金壹圓貳拾錢	大正五、六年度分	岡田みつ
一金壹圓八拾錢	大正三、四、五年度分	平田愛子
一金六拾錢	大正五年度分	内山ヒイ
一金六拾錢	大正五年度分	塚原をりえ
一金二圓	大正五、六、七年度分 (二〇錢餘)	北村すゑの
一金六十錢	大正八年度分	吉田はつ
一金六十錢	大正六年度分	西方はるの
一金六十錢	大正六年度分	西村なすの
一金廿四圓六十錢	大正七年度分四十一名分	大正七、家卒
一金三十圓	大正七年度分五十名分	大正七、養卒
一金六十錢	大正八年度分	梶原かじ

會計報告 (自大正五年三月
至同 六年二月)

收入ノ部

繰越高	一〇三、〇八五
在校生雜誌代	三〇、六〇〇
會員會費	二二一、一四〇
計	三五四、八二五
支出ノ部	
第十號雜誌印刷代	九六、六〇〇
雜誌發送費	七、一二〇
談話會三回開會費	一九、一四〇
臨時小冊子和譯代	二六、〇〇〇
振替用紙代及振替受入料金	二、〇四〇
帳簿類印刷新調費	七、四八〇
雜費	一、五五五
計	一五九、九三五
差引高	一九四、八九〇
收入ノ部	
繰越高	一九四、八九〇
雜誌實費	五六、八五〇
會員年會費	一〇八、〇〇〇
利子	六〇〇
計	三六〇、三四〇

家事科學術談話會叢書一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六
 納戸模型製作代 二五、〇〇〇
 談話會四回講演謝禮 二七、〇三〇
 全上開會雜費及研究費 二〇、二〇五
 振替料金 六一〇
 雜費 二、三四〇
 計 二〇〇、三四五
 差引高 一五九、九九五

編輯係より

會員の諸姉へ

種々の都合で豫定外に會報の發行が遅延いたしました。お申譯がありません。此度から家事科會報と改名いたしました。數年前から技藝科は家事科と改名されましたので其に伴つていたした次第でございます。諸姉には益々御元氣にて御活動の御事誠に結構に存じます。目下何れの地におきましても家事科の研究必要を認められまして日に發展の域に進みます事は私共にとりまして一層の勉強努力の必要をまします。つきましては多數の皆様御研究御經驗等の數々を御寄稿いただきたい。きましてお互の御意見を廣く御交換下さいましたならば此會報も益々「無くてならぬもの」となります事と存じます。故是非御多數の御寄稿を御願いたし

支出ノ部

今迄技藝科會の會計は餘り窮屈でもありませんでしたが、會員の數が増加いたしました。會報一回の發行にも七百部百二十圓といふ費用を要する様になりました。この十一號を發行いたしました後は會計は心細い様な有様になりました。是非皆様から會費を御納めいただきたいのでございます。年會費六十錢でございますから、六十錢の倍數にして御送金下さる方が當會では都合が宜しいでございます。僅かの御送金は御厄介な事と存じますが先年より振替に加入いたしましたから其れを御使用下さい。様には御願いたします。猶振替通信欄を御利用下さい。まして何年の卒業、轉居、改姓などを御通知下さる様に御願いたします。

故安川先生

大正六年九月二十二日午前零時十七分、我等の敬慕し奉りし安川あい子先生は御病を以つて湘南の地に逝き給ふ。

先生は、明治十七年十月一日長野市に御誕生遊ばされ御幼時、長野縣師範學校附屬小學校に學び給ひ、のち長野市立高等女學校及同校補習科を経て、女子高等師範學校技藝科に御入學、同三十九年三月御卒業遊ばさ

會計係より